

項番	導入システムに求める機能・仕様
1	統合診療支援システム
1 - 1	基本機能
1 - 1 - 1	統合診療支援システム（以下、本システム）は、電子カルテシステム、各部門システム、にて発生する各種の画像・レポート情報を一元的に管理し、時系列をはじめとする各種参照機能等を有すること。
1 - 1 - 2	本システムで管理する画像・レポートを対象に患者単位で、タイムライン表示、サムネイル表示、レイアウト表示、検査リスト表示機能を有すること。
1 - 1 - 3	表示機能から、さらに詳細にデータ内容を確認する為のデータ参照機能を有すること。
1 - 1 - 4	電子カルテシステムと連携し、患者基本属性等の取得ができる機能を有すること。また、電子カルテからの起動の際、患者IDや利用者IDの受け渡しを行い、シングルサインオンができる機能を有すること。
1 - 1 - 5	診療科または利用者個人設定で表示可能な画像・レポートの組み合わせを登録できる機能を有すること。
1 - 1 - 6	将来的に他システムや検査機器との接続が検討された際は、病院及び担当ベンダーとも協議の上、接続を可能とすること。またその際の費用は別途協議するものとする。
1 - 2	電子カルテシステム連携機能
1 - 2 - 1	電子カルテシステムとの患者基本情報の連携機能を有すること。
1 - 2 - 2	電子カルテシステムとの利用者情報の連携機能を有すること。
1 - 2 - 3	電子カルテシステムとの職種情報の連携機能を有すること。
1 - 2 - 4	電子カルテシステムとの検体検査結果の連携機能を有すること。
1 - 3	部門システム連携機能（他部門連携機能）
1 - 3 - 1	既存医用画像管理システム（PACS）と検査情報を連携し、オーダ番号等検査指定にて画像参照ビューアを起動する機能を有すること。
1 - 3 - 2	既存放射線レポートシステムと連携し、オーダ番号等検査指定にてレポート参照ビューアを起動する機能を有すること。
1 - 3 - 3	病理検査システムと検査情報を連携し、オーダ番号等検査指定にてレポート参照ビューアを起動する機能を有すること。
1 - 4	タイムライン表示機能
1 - 4 - 1	タイムライン機能では横軸に時間軸、縦軸に検体検査、画像・レポート・文書情報をマトリックス形式で配置することで時系列に診療データの発生状況を俯瞰、参照できる機能を有すること。
1 - 4 - 2	タイムラインの時間軸は、カレンダー日付単位、画像・レポート・文書の存在する日付単位、履歴単位（最新、1回前、2回前、等）の表示切替機能を有すること。
1 - 4 - 3	画像・レポート・文書の発生分布を月毎にグラフ化して表示するタイムラインバー機能を有すること。
1 - 4 - 4	電子カルテシステムとの連携により取得した検体検査結果データを時系列に表示する機能を有すること。
1 - 4 - 5	検体検査結果データは指定検査項目を折れ線グラフで表示する機能を有すること。
1 - 4 - 6	指定の検体検査結果データ項目を選択する事により、該当日付の全検査結果を参照できる機能を有すること。
1 - 4 - 7	マトリックス上に「画像」及び「レポ」（レポート）ボタンを表示し、ボタン選択により、該当情報を拡大表示できる機能を有すること。
1 - 4 - 8	マトリックス上の文書名を選択する事により、該当文書の内容を詳細表示できる機能を有すること。
1 - 4 - 9	マトリックス上の画像・レポート・文書を複数選択し、比較表示ができる機能を有すること。
1 - 5	サムネイル表示機能
1 - 5 - 1	システムで管理するデータ（画像・文書情報）を対象として、患者単位に、その患者と関連するデータ（画像・文書情報）を一覧表示する機能を有すること。
1 - 5 - 2	一覧表示では、データ単位、データ発生日単位、データ種別単位で分類・並び替えができる機能を有すること。
1 - 5 - 3	一覧表示の際、データの種別が識別できるよう、サムネイル形式で表示する機能を有すること。またサムネイルの大きさは、スライダーにて自由に拡大・縮小ができる機能を有すること。
1 - 5 - 4	サムネイルをダブルクリックして指定する事により、指定したデータを拡大表示できる機能を有すること。
1 - 5 - 5	サムネイル表示された画像・レポート・文書を複数選択し、比較表示ができる機能を有すること。
1 - 5 - 6	一覧表示されるデータを、文書種別や検査種別で絞り込む機能を有すること。
1 - 6	検査リスト表示機能
1 - 6 - 1	画像・レポート・文書をリスト表示できる機能を有すること。
1 - 6 - 2	日付、未読、種別、履歴、診療科、入外、詳細、レポートの有無の各条件を設定し、リストを絞り込み表示できる機能有すること。
1 - 6 - 3	シリーズの一覧を表示できる機能を有すること。
1 - 6 - 4	検査リストにサムネイルの一覧を表示できる機能を有すること。
1 - 6 - 5	同一オーダの検査や文書が存在する場合、それらを関連付けて表示する機能を有すること。
1 - 6 - 6	複数の異なる検査種別、文書種別などの組み合わせをセット登録し、セット選択することでリストデータを絞り込み表示できる機能を有すること。また、絞り込み表示を行うとサムネイル表示機能も絞り込まれる機能を有すること。

項番	導入システムに求める機能・仕様
1 - 6 - 7	リストの表示、非表示を切り替えできる機能を有すること。

項番	導入システムに求める機能・仕様
1 - 7	レイアウト表示機能
1 - 7 - 1	様々な診療プロセスの場面毎（例えば、入院時、術前、術後、退院時、外来フォロー等）に、複数の画像・レポート・文書・電子カルテ連携情報の組み合わせをレイアウト表示機能にてセット登録し、当該場面に必要な情報を迅速に参照できる機能を有すること。
1 - 7 - 2	複数の画像・レポート・文書、及び電子カルテ連携情報を表示する枠を、2×1、2×2、4×4などの均等分割の他、2×3などの不均等分割も含めて自由に配置でき、同時に複数のデータ種別や複数の過去データとの比較表示が容易にできるレイアウト表示機能を有すること。
1 - 7 - 3	レイアウト表示機能は、レイアウトセット名称を付与して利用者別、診療科別に設定可能な機能を有すること。
1 - 7 - 4	レイアウト表示機能は、レイアウト別に複数のタブに表示できる機能を有すること。
1 - 7 - 5	利用者毎に起動する際に表示されるデフォルトのレイアウトを、システムの既定値とは別に指定することができること。
1 - 7 - 6	電子カルテシステムや部門システムからレイアウト指定で該当のレイアウト表示機能呼び出す機能を有すること。
1 - 8	入院患者時系列参照機能
1 - 8 - 1	患者の入院期間単位に、横軸に時間軸、縦軸に画像・レポート・文書、及び電子カルテ連携情報を時系列で配置し、診療データの発生状況を俯瞰、参照できる機能を有すること。
1 - 8 - 2	時間軸は、入院期間とそれ以外の期間で、異なるスケールで表示することができ、入院期間中は、全ての日付をカレンダー通りに表示できる機能を有すること。
1 - 8 - 3	入院期間外の時間軸は、種別毎のデータ件数を表示するサマリ表示のモードと、データのある日付を全て表示するモードを切り替えて表示できる機能を有すること。
1 - 8 - 4	表示対象とする入院期間を切り替えることができる機能を有すること。
1 - 8 - 5	最新、前回、前々回の入院期間については、1クリックで呼び出すことができる機能を有すること。
1 - 8 - 6	時間軸に入院開始からの経過日数を表示できる機能を有すること。
1 - 8 - 7	入院期間中に手術が行われた場合、時間軸に手術日を表示できる機能を有すること。
1 - 8 - 8	手術が行われた日は、他の日付に対して強調して表示を行うことができる機能を有すること。
1 - 8 - 9	時間軸に手術までの日数もしくは手術からの経過日数を表示できる機能を有すること。
1 - 8 - 10	外来受診を行った場合、時間軸に外来受診を表示できる機能を有すること。
1 - 8 - 11	本システム連携データ種として、以下のデータを取り扱うことができる機能を有すること。具体的な連携データについて電子カルテ、病院様との協議の中で確定する。
1 - 8 - 11 - 1	・カルテ記事
1 - 8 - 11 - 2	・オーダ
1 - 8 - 11 - 3	・検体検査
1 - 8 - 11 - 4	・処方
1 - 8 - 11 - 5	・注射
1 - 8 - 11 - 6	・放射線、病理等検査（本システム連携対象のみ）
1 - 8 - 12	本システム連携データは、分類の下に詳細種別を持ち、分類毎に展開/非展開を切り替えることができること。
1 - 8 - 13	表示対象の本システム連携データおよびその並び順については、プリセットを作成し切り替えることができること。
1 - 8 - 14	プリセットは、医師毎、診療科毎に、それぞれ複数作成することができること。
1 - 8 - 15	診療科情報を持つデータの場合、自科のデータのみを絞り込んで表示することができること。
1 - 8 - 16	同日、同じ種別に複数のデータがある場合、データの個数を表示することができること。
1 - 8 - 17	同じセルに複数のデータがある場合、それぞれのデータをリストに表示することができること。
1 - 8 - 18	検査にレポートが付属する場合、画像とレポートそれぞれのアイコンを表示することができること。
1 - 8 - 19	画像、レポートの既読/未読状態を表示することができること。
1 - 8 - 20	マトリクスにて選択したデータを、画面を切り替えることなく、同じ画面内のデータ表示エリアに展開して表示することができること。
1 - 8 - 21	データ表示エリアに表示中のデータがある状態で再度マトリクスでデータを選択した場合、表示中のデータを置き換えて表示することも、新しいデータを追加して表示することも出来ること。
1 - 8 - 22	マトリクスで複数のデータを選択して、同時にデータ表示エリアに展開して表示することができること。
1 - 8 - 23	日付を選択して、その日のデータ全てを表示エリアに展開して表示することができること。
1 - 8 - 24	データ種を選択して、そのデータ種のデータを表示エリアに展開して表示することができること。
1 - 9	データ参照機能
1 - 9 - 1	表示するデータが画像データの場合、拡大・縮小表示機能を有すること。また拡大表示した場合は、表示エリアを移動（スクロール）する機能を有すること。
1 - 9 - 2	表示するデータが画像データの場合、明るさ・コントラストの調整機能を有すること。
1 - 9 - 3	表示するデータが画像データの場合、90度単位の回転機能を有すること。

項番	導入システムに求める機能・仕様
1 - 9 - 4	表示するデータが画像データの場合、色調反転機能を有すること

項番	導入システムに求める機能・仕様
1 - 9 - 5	1データあたり、複数データが存在する場合（複数ページの文書や1検査複数画像の場合）においての、表示データ切替機能を有すること。
1 - 9 - 6	レポート・画像等のデータの種別に問わず、任意のデータを画面上に自由に並べて表示し、過去データや他検査との比較を容易に行える機能を有すること。
1 - 9 - 7	自由に並べたレイアウト情報（配置場所・データ種別・データ種別ごとの履歴）を、データの検索条件として保存する機能を有すること。
1 - 9 - 8	レイアウト情報の保存は、利用者・診療科・院内共通から公開範囲を選択できる機能を有すること。 また、公開範囲は権限により選択できる範囲を制限する機能を有すること。
1 - 9 - 9	保存したレイアウト情報を呼び出し、簡単な操作で該当するデータを瞬時に表示する機能を有すること。
1 - 9 - 10	レイアウト保存機能を用いて画面上に並べた文書や画像データを、配置したレイアウト情報とセットにして、患者単位で保持する機能を有すること。
1 - 9 - 11	レイアウト保存機能で保持した患者単位のデータ表示状態を再現する機能を有すること。
1 - 9 - 12	表示するデータが画像データの場合、同時に起動中の診療文書作成システムに対し、指定した画像データを渡す機能を有すること。
1 - 9 - 13	表示するデータが画像データの場合、データをJPEGファイルとして外部のファイルに保存する機能を有すること。
1 - 9 - 14	表示中のデータを印刷する機能を有すること。
1 - 10	タグ付け機能
1 - 10 - 1	画像・レポート・文書にタグ付けを行う機能を有すること。また、その際タグを付けた利用者や、その利用者の診療科の情報も付加し、テキストによるコメントも入力できる機能を有すること。
1 - 10 - 2	利用者自身や利用者と同じ診療科のスタッフが、タグ付けした画像・レポート・文書だけを簡単な操作で絞り込み表示する機能を有すること。
1 - 11	既読管理・基本機能
1 - 11 - 1	部門システム連携機能にて連携される放射線レポート及び病理レポート等を既読管理の対象とできる機能を有すること。
1 - 11 - 2	タイムライン表示機能に既読対象データの未読状態をアイコン表示できる機能を有すること。
1 - 11 - 3	未読状態は、操作者自身が依頼した検査、自科の他医師が依頼した検査、他科医師の依頼した検査を区別してアイコン表示できる機能を有すること。
1 - 11 - 4	部門システム連携機能にて連携されるレポートシステムより、重要フラグを受け取り、重要レポートとして登録できる機能を有すること。
1 - 11 - 5	重要レポートの場合、重要フラグのない通常レポートとは区別して未読状態をアイコン表示できる機能を有すること。
1 - 11 - 6	既読後にレポートの改版が行われた場合は、未読の改版レポートとしてアイコン表示できる機能を有すること。
1 - 11 - 7	レポートが未作成の画像検査も表示し、レポートがないことを利用者が把握できる機能を有すること。
1 - 11 - 8	ドキュメントスキャナー装置にてスキャンされた外部委託等のレポートについて、依頼医情報や重要フラグ情報を登録する事で、既読管理対象とする機能を有すること。
1 - 11 - 9	医用画像管理システム（PACS）の検査画像を、既読管理の対象にできる機能を有すること。
1 - 12	既読管理・通知機能
1 - 12 - 1	電子カルテシステムの利用者ログオン完了時に未読データが有る場合、本システムのボタン操作することなく、利用者へポップアップ画面にて通知できる機能を有すること。
1 - 12 - 2	未読の通知を行う場合、対象レポート確定後7日間など、一定期間経過しても未読の状態である検査をまとめて通知できる機能を有すること。期間については、施設の運用に合わせて変更できる機能を有すること。
1 - 12 - 3	重要レポートが到着した場合は、検査依頼医師が電子カルテログイン中であれば、本システムを起動している状態でなくとも、リアルタイムで通知を受信できる機能を有すること。
1 - 12 - 4	電子カルテシステムから入院移動情報を連携できる場合、検査依頼医師だけでなく入院主治医や入院担当医師へ未読通知できる機能を有すること。
1 - 12 - 5	通知画面から、直接対象レポートを表示できる機能を有すること。
1 - 12 - 6	通知画面から、未読レポートの一覧を表示できる機能を有すること。
1 - 12 - 7	電子カルテシステムにログオンしていない時に通知が送信された場合は、次回電子カルテのログオン完了時に、未表示の通知が全て表示できる機能を有すること。
1 - 12 - 8	過去に通知された通知メッセージ履歴一覧を表示できる機能を有すること。
1 - 12 - 9	電子カルテシステムにて対応が可能な場合、患者カルテ起動時に該当患者のレポート未読状態を通知できる機能を有すること。
1 - 12 - 10	操作者が再通知日を指定することで、患者来院等に合わせ、通知の再通知ができるリマインド機能を有すること。

項番	導入システムに求める機能・仕様
1 - 13	既読管理・既読操作機能
1 - 13 - 1	操作者の職種や検査依頼科（自科または他科）により、既読操作者を制限できる機能を有すること。
1 13 2	救急科オーダなど特定診療科の場合、該当の検査レポートに対し、権限付与された全診療科の既読操作者が既読操作できる機能を有すること。
1 - 13 - 3	操作者の職種により、既読状態表示対象者を制限できる機能を有すること。
1 - 13 - 4	未読レポートの既読宣言を利用者が行う場合、能動的操作にて既読にできる機能を有すること。
1 - 13 - 5	既読後のレポートを、利用者の操作で未読に戻すことができる機能を有すること。ただし、未読に戻すことができるのは、自身が既読にしたレポートであること。
1 - 13 - 6	レポート参照時に既読操作を行うことなく、自動的に既読にできる機能を有すること。
1 - 13 - 7	検査依頼医師自身でレポートを作成した場合は、該当レポートを自動的に既読にできる機能を有すること。
1 - 13 - 8	研修医がオーダされたレポートを研修医自身で既読操作を行う場合、自身の指導医を指定する事で、指導医とのダブルチェックにて該当レポートの既読が完了する機能を有すること。
1 - 13 - 9	検査依頼医師自身の既読操作時に、主治医など他医師への既読依頼ができる機能を有すること。その場合、依頼された医師に通知を行うことができ、既読依頼コメントを表示できる機能を有すること。
1 - 13 - 10	レポートの確認を行った結果を、既読コメントとして登録できる機能を有すること。定型文を利用者単位、または院内共通で登録でき、院内共通の定型文は権限により編集可能な利用者を制限できること。また、既読コメントは既読ワークリスト画面上で、医療安全部門スタッフや読影医などと共有できること。
1 - 13 - 11	本システムのレポート参照画面を閉じる際、レポートを既読として閉じるか、未読のまま閉じるかを選択する機能を有すること。
1 - 14	既読管理・既読ワークリスト機能
1 - 14 - 1	既読管理対象のデータを検索してリストに表示することができる既読ワークリスト機能を有すること。検索条件として、データの種別、未読/既読状態、作成日、作成日からの日数、検査種、患者ID、患者名、検査日、レポート作成者、既読者、既読日時などの条件を指定できる機能を有すること。
1 - 14 - 2	よく使う検索条件（利用者自身の依頼分のみ、自科のみ、自科未読14日超え、全科未読14日超え、等）については、検索プリセットとして保存し、検索プリセットメニューから検索できる機能を有すること。
1 - 14 - 3	既読ワークリスト機能の検索結果として、検査種、重要フラグ、レポート版数、依頼科、依頼医、未読/既読状態、既読操作者、既読時刻、既読コメントを一覧表示できる機能を有すること。
1 - 14 - 4	既読ワークリストから指定のレポートを参照できる機能を有すること。
1 - 14 - 5	管理者権限にて既読ワークリストの内容をCSV出力できる機能を有すること。
1 - 14 - 6	レポートに複数の既読対象者が設定されている場合、それぞれの既読対象者毎の未読/既読状態や、既読にした操作者の操作者名、既読時刻を表示できる機能を有すること。
1 - 14 - 7	複数のレポートを選択して、既読対象者を一括で変更できる機能を有すること。
1 - 14 - 8	対象のレポートに既読対象者が複数設定されており、またその未読/既読状態が未読の場合、その既読対象者の削除ができる機能を有すること。
1 - 14 - 9	対象のレポートに、既読対象者を追加する機能を有すること。その際、追加する既読対象者に対するコメントを登録できる機能を有すること。
1 - 14 - 10	既読対象者の追加・変更・削除を行うことができる利用者は、管理者もしくはそのレポートを依頼した医師に制限できる機能を有すること。
1 - 14 - 11	管理者権限にて、対象レポートの既読状態を変更できる機能を有すること。既読状態を変更する際に、変更理由などを合わせて登録できる機能を有すること。
1 - 15	既読管理・既読監査機能
1 - 15 - 1	医療安全部門にて、レポート既読後に適切な診療行為が行われているか否かのカルテ監査を行うための既読監査機能を有すること。
1 - 15 - 2	既読監査機能では、監査対象レポートの検索及び対象レポートのリスト表示機能を有すること。
1 - 15 - 3	既読監査機能では、未読/既読レポート一覧にて選択したレポートに合わせて、該当患者の電子カルテシステム連携情報（カルテ記事、病名、オーダ情報等）を同じ画面上にレイアウト配置し、必要な情報のみを見やすく設定できる機能を有すること。この際、フリーテキスト検索が行えること。
1 - 15 - 4	既読監査機能において、カルテ記事などの診療情報は選択した検査の検査日以降のデータに絞り込む機能を有すること。
1 - 15 - 5	既読監査結果ステータス（未対応、対応済、連絡済、等）をメニューから選択入力できる機能を有すること。また、ステータスは複数定義することができ、管理者が任意に選択できる機能を有すること。

項番	導入システムに求める機能・仕様
2	ハードウェア
2 - 1	サーバー
2 - 1 - 1	CPUは2.1GHz×4コア以上の機能を有すること。
2 - 1 - 2	メモリは16GB以上の機能を有すること。
2 - 1 - 3	HDD実効容量は1TB以上であること。
2 - 1 - 4	RAID構成はRAID5以上の機能を有すること。
2 - 1 - 5	19インチラックマウント型とし、標準的なEIA規格に準拠すること。
2 - 1 - 6	サーバーOSは、Windows Server 2022 Standard相当以上を、必要に応じてアプリケーション用にチューニングし、導入すること。
2 - 1 - 7	サーバーは、複数のサーバー（DB・IFサーバー）で構成され、最適なスペックを調達すること。
2 - 1 - 8	サーバーは、最低導入後6年以上のサポートが受けられるハードウェアを選定すること。
2 - 1 - 9	高さは1U～2U程度とし、ラック内の設置スペースに収まるサイズであること。
2 - 1 - 10	19インチラックは病院が準備する既設のものを利用し、搭載可能なレール等を調達すること。
2 - 1 - 11	項番 2-3 を満たす無停電電源装置（UPS）を接続すること。
2 - 2	クライアント端末
2 - 2 - 1	<p>構築時の連携テスト、メンテナンスに使用するクライアント端末を1台導入すること。</p> <p>テスト環境を構築し、クライアント端末には、サーバーOSを2ライセンス分含めること。</p> <p>端末は、以下のスペックを満たすこと。</p> <p>CPU: Intel Core(TM) i5-14500 (2.6GHz)相当</p> <p>メモリ: 24GB</p> <p>SSD: 1TB</p>
2 - 3	無停電電源装置（UPS）
2 - 3 - 1	停電や電源障害時における機器の安全な動作およびデータ保護を目的として、適切な容量の無停電電源装置（UPS）を設置すること。
2 - 3 - 2	対象機器の電源供給を一定時間維持可能なものとし、必要に応じてシャットダウン制御機能を備えること。
2 - 3 - 3	電源供給はシャットダウン終了までの時間維持可能とすること。